



兵庫県立但馬やまびこの郷

# 虹のかけ橋

教職員向け機関紙 Web版

令和7年3月



「虹のかけ橋」バックナンバーは[コチラ](#)→



## 「不登校に関する研修会」報告



令和5年度の兵庫県内公立小・中学校の不登校児童生徒数は、前年度より1,672人増え、1万5,849人でした。不登校の要因・背景は多様であり、児童生徒への個に応じた支援や保護者の困り感に寄り添った相談体制、SCやSSWを含むチーム学校としての対応、各専門機関との連携などが求められています。

そこで、不登校に関して理解を深めていただくため、例年、県内各会場において、外部講師を招聘して研修会を実施しています。その講義の一部を紹介します。



発達特性のある  
不登校児童生徒の理解と支援



大人になる前に考えておきたいこと  
～その子らしく大人になることを支援する～



思春期と不登校



不登校児童生徒の支援について  
～SSWの視点から～

**来年度も開催を予定しています！  
ぜひ、ご参加ください！！  
一緒に不登校について考えましょう。**



## 第1回

日時・会場：令和6年7月23日（火） 姫路市市民会館  
テーマ：「発達特性のある不登校児童生徒の理解と支援」  
講師：井澤 信三（兵庫教育大学 教授）



二次障害とは、強い特性を持った個人が集団の中に入り、共に過ごすことで生じてくる、行動面・情緒面での問題。周囲との相互作用によって生じてくる。発達障害的な行動傾向から二次障害が現れることで、他者から誤解され、付随的な症状として現れることがある。二次障害の予防には、その人の特性を理解し、その特性に合わせた対応及び環境調整が求められる。

発達特性がある児童生徒の登校行動が生起しない要因には、学校に来ると嫌なことが多すぎる場合、学校に来てても良いことがない場合の2つがある。児童生徒との関わりは、まず信頼関係を築き、その人の「人となり」をつかむことが大切である。十分に話をきく姿勢をもち、大人からの視点では不条理な言い分であっても、児童生徒がそう思ったことを受け止め、否定することを言わないこと、特性や児童生徒の価値観や考え、思いを把握することが必要である。児童生徒の生活は学校卒業後も続いていくため、卒業後の生活を見据えた支援が必要である。

発達特性のある人が社会に出た時に、誰かとつながりながら生活できるようにすることが最終的な目標になる。

## 第2回

日時・会場：令和6年8月6日（火） 県立兵庫津ミュージアム  
テーマ：「大人になる前に考えておきたいこと

～その子らしく大人になることを支援する～」

講師：小寺澤 敬子（姫路市総合福祉通園センター・小児科医）



障害の有無に関係なく、全ての子どもは大人へ成長する。児童生徒の支援の目的は、大人になって自分らしく社会生活が送れること、自己肯定感や自己有能感を持てるようにすることである。診断名を知っても、どう対応すればよいのか分からないままの子どもが多い。診断を受けることが支援のスタートではなく、特性（強み、弱み）の理解が支援のスタートである。自分に合った対処法は自分で見つけられるものではないので、支援者のサポートが必要である。気になる行動が増えたときは、そうしてしまう理由を考える。子どもを説得するのではなく、子どもが納得することが大切である。

薬物療法は根本治療ではない。薬物療法の目標は、症状が出なくなるのではなく、折り合えるようになることである。子どもが不利益を被らないようにするための手立ての一つである。

大人になったときの目標は、ほどほどの自尊心を持ち、自分を知り、できない自分も好きと思えること、リラックスできることがあること、何かあったときは相談できることである。支援者はその過程に寄り添っていくことが大切である。

### 第3回

日時・会場：令和6年8月8日（木） 県立総合体育館

テーマ：「思春期と不登校」

講師：伊藤 美奈子（奈良女子大学 教授）



思春期は、情緒面・意識面・友人関係・親子関係において激しく揺れ動く時期である。プライド、反抗心、不信、甘えなどにより言語化がスムーズにいかない。言葉にできないため、心身症や問題行動に現れる。

現代社会における不登校の背景には多様な問題があるため、複数の目によるアセスメントと複数の手（他職種）による支援が必要である。アセスメントをするためには、「声にならない声」を聴き取る必要がある。普段の健康観察と小さな変化に気付く力が必要であり、情報を共有することが重要である。チームとして校内の多職種の力を活かし、ケース会議などによる丁寧なアセスメントが必要である。さらに、家庭や専門機関との連携も必要である。

不登校の児童生徒への支援のゴールは「社会的自立」である。自立への最初の一步は多様であり、その子にとって何が最初の一步になるか考えていく必要がある。

不登校支援は、みんなが安全で安心に、学びたいときにいつでも学べるという、あるべき学びの場について考える必要がある。不登校の子どもだけでなく、保護者や先生などの支援者を孤立化させないことが重要である。

### 第4回

日時・会場：令和6年10月22日（火） 県立但馬やまびこの郷

テーマ：「不登校児童生徒の支援について ～SSWの視点から～」

講師：馬場 幸子（関西学院大学 教授）



学校で起きている問題は、人と環境の相互作用で生じている。SSWの視点から、個人が持っている要素と環境の要素をエコロジカル視点で見て、相互作用を改善していく必要がある。さらに、本人や家族、学校、地域の持っている強みに焦点を当てて、どこを伸ばしたり活用したりできるか考える。そして、家族全体を支援し、権利を擁護していく。これがなければ、不登校児童生徒への支援は成り立たない。

不登校であることで、豊かに育つ権利が奪われている。不登校児童生徒の学習権については、遊ぶ権利も大切に、理解しなければならない。ゲームなど遊んでばかりで勉強をしなくなる、甘やかしていると思われることが多いが、学ぶことの楽しさを伝えられているか、その子に合った学習方法がとれているか、将来の展望を描く助けができていくかを考えることが大切である。

未然防止のために、SSWと学校との戦略的な協働が大切である。事後対応では、短期間で状況が変化しないことが多い。不登校対策プランをSSWと一緒に立てていくと、新たな展開が生まれるかもしれない。そのためにも、まずはSSWを不登校対策チームのメンバーに入れて、一緒に話すことから始める。教員とSSW・SCなど関係者などが一体となり、児童生徒が守られ育まれる包摂的な環境を作り出せる取組を展開することが大切である。



# 子どもたちが安心して過ごせる居場所を増やしませんか？

同年代の子どもたちと交流できる場所  
体験活動を通して、心のエネルギーを蓄える場所



各種資料をご活用ください！（詳細は画像をタッチ）



施設利用  
リーフレット



施設紹介  
パンフレット



先輩からのメッセージ  
～学校に行きづらいあなたへ～



各種申込書類は [こちら](#) から！



## 見学・体験・相談

申込書類は1枚のみ！  
保護者のみ、教職員・指導者のみの  
見学・相談も可能です。

## 宿泊体験活動

申込書類は5枚！（保護者3枚＋学校2枚）  
ご利用の10日前までに、学校から電子メール  
もしくは郵送、来所で提出してください。

まずはご連絡ください！ **079-676-4724**

## 教育相談

不登校支援に関することなら、  
何でもお聞かせください。保護  
者のみ、教職員・指導者のみの  
相談も可能です。

## 施設利用

お子さんやご家庭の状況に合わせて、利用方法や日  
程について相談させていただきます。なお、初めて  
利用される場合、1日（または半日）での体験活動  
や施設見学での参加をおすすめしています。

兵庫県立但馬やまびこの郷機関紙「虹のかけ橋」Web版  
発行／兵庫県立但馬やまびこの郷  
〒669-5135 兵庫県朝来市山東町森字向山 3045-101  
TEL 079-676-4724 FAX 079-676-4721 URL <https://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

令和7年3月